

防災広場と隣接させ、災害時の活動拠点とします。

▷屋 根

- ・屋根材は、費用対効果と将来のメンテナンスを含め比較検討を行い、シート防水対応を採用します。
- ・雪対策については、屋根に貯める対応とし、雪の落下対策として、屋根先端部にヒーターの設置を行います。

▷学習スペース

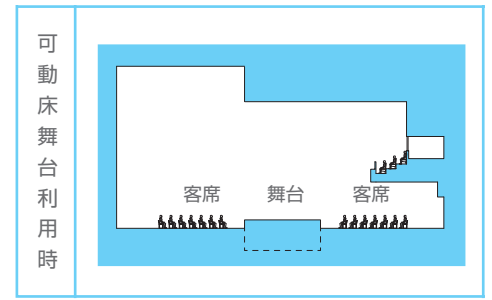
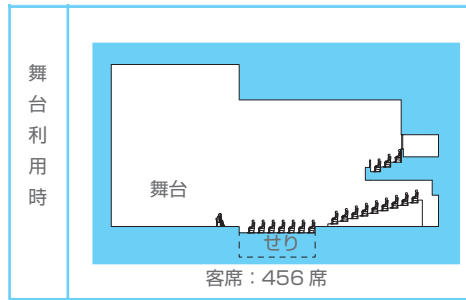
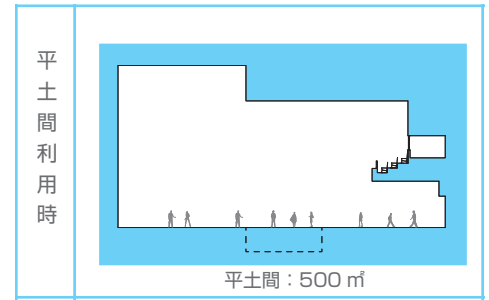
- ・大屋根下の天井が高い空間を有効利用して、ふれあい広場から視認性の高い位置の2階に学習スペースを設け、小中高校生の集まる場をつくります。

▷大ホール

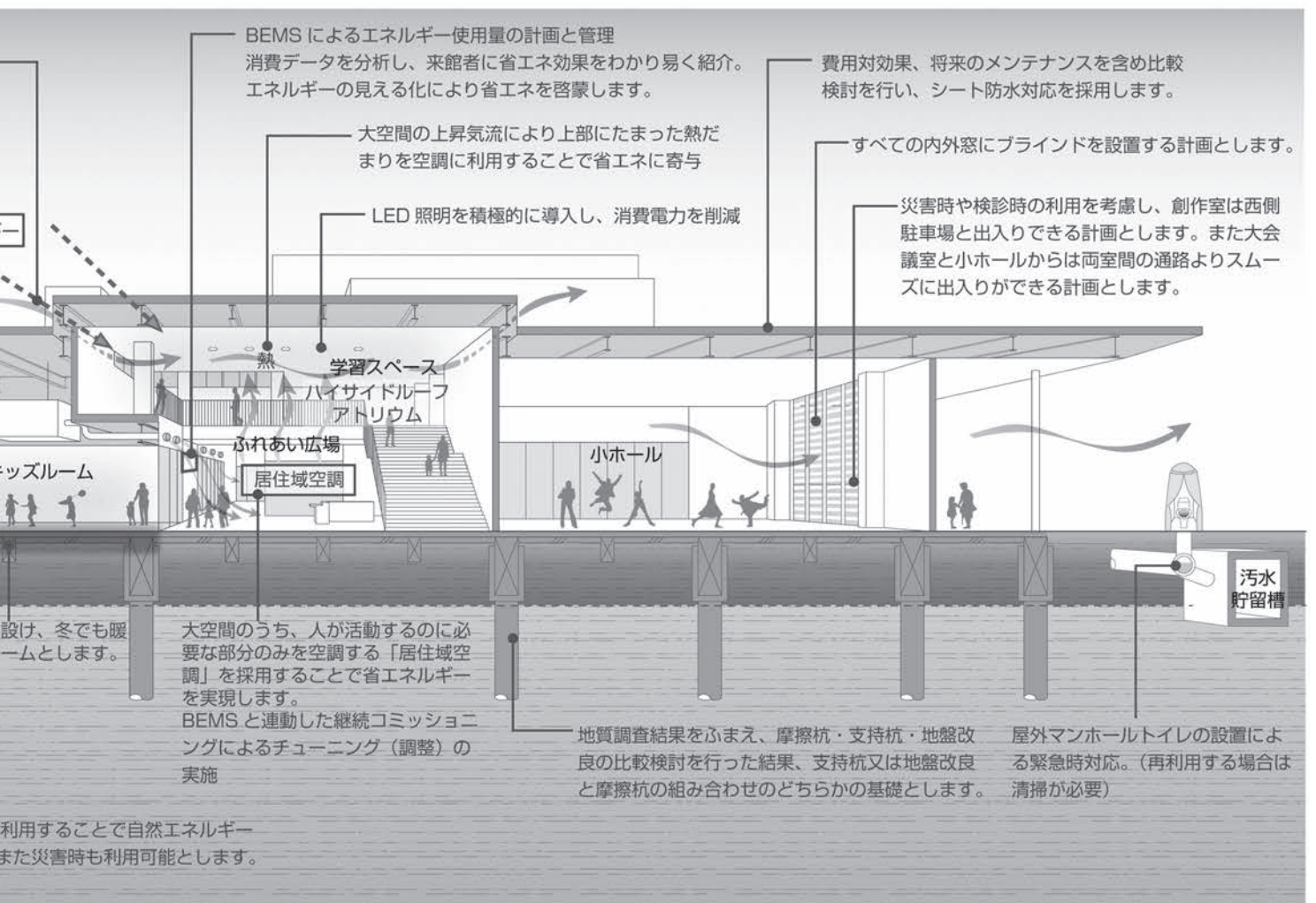
- ・新たなホール形状の提案。基本計画時での500席、500㎡の平土間は、

客席部分が間延びしてしまいバランスが悪いため見直しを行い、舞台を利用した平土間とすることで、バランスのとれたホール空間を創出することができました。

さらにこれにより客席を一部昇降床とし、最大456席のホールから346席のホールまで、多様なホール空間を創出することができました。



導入+昼光利用による電力負担の平準化を行います。高効率機器の採用や全熱交換機によるエネルギーロス低減を行います。



平成 24 年 7 月「滝沢村交流拠点複合施設等設計業務プロポーザル」で選定された案を基に、建設推進委員会や建設推進プロジェクトチーム会議、全体ワークショップ、個別部会などで議論を重ね、皆さんの意見を極力取り入れて、基本設計(案)をとりまとめました。滝沢のシンボルとして岩手山の稜線をイメージした「みんなでつくる大屋根」の実現に向け、今後、実施設計を進めます。

交流拠点 複合施設

7 月 5 日号に引き続き、概要をお伝えします。

正式な概要版や詳しい図面などは、村のホームページをご覧ください。

●問い合わせ 交流拠点整備室 (内線 398・399)



▷災害時も連携する「災害に強いまちづくり」

・村役場と滝沢総合公園、交流拠点複合施設 3 つの施設が相互に補完しながら多重に連携します。

また、警察や自衛隊、医療などの活動支援機能と共に、高齢者や障がい者などの要援護者の避難場所など、住民の安全確保のための複合的防災拠点機能を担います。

施設内には住民連携による避難訓練や適切な避難方法などを展示で周知するほか、消防・警察などと連携した防火・防災訓練で、住民に対し幅広く防火・防災の普及啓蒙を図る拠点とします。

▷消防屯所

・主要交差点から離れた配置とし、緊急車両の出入を容易にします。

環境に与える影響を極力減らした、「自然や地球と暮らす施設」

- ・電力負担の平準化とエネルギーロスの削減を図ります。自然換気、外気冷房による負荷の削減+地中熱利用設備+共用部への LED 照明
- ・建築仕様、設備仕様の見直し等により、エネルギー削減 30%、ライフサイクルコスト 15% 削減の計画とします。

